

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24500294

研究課題名(和文)統合的な図書館・図書館史研究の構築

研究課題名(英文)New Perspective on the Historical Development of the American Libraries

研究代表者

川崎 良孝 (KAWASAKI, Yoshitaka)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：80149517

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は19世紀中葉から21世紀にいたる図書館の歴史的展開を、新たな視点で解明している。「サービスの提供」という基本的価値に、1960年代から「資料や情報へのアクセスの保障」と「図書館記録の秘密性の保護」という価値が加わり、これらの3つの価値は思想的、実践的に20世紀末に向けて深められていった。しかし21世紀に入り、「アクセスの保障」と「秘密性の保護」という価値は、社会や技術の変化を受けて揺らぐとともに、それらを意識した図書館の理論や実践が生まれている。本研究は広範な一次資料の発掘や実践の研究を通じて、こうした歴史的展開を実証的に解明し、一般図式を提供した。

研究成果の概要(英文)：The present study has clarified historical development of the library from the middle of the 19th century to the 21st century by a new perspective. Values "access" and "confidentiality" joined basic traditional value "service" in the 1960's. These three values were deepened toward the end of the 20th century. However, with entering the 21st century, social and technological changes have made "access" and "confidentiality" decreased. Under these circumstances, many innovative nontraditional services are developed and tried such as learning commons, library as a third place, and so on. The present study empirically clarified such historical development.

研究分野：図書館情報学

キーワード：アメリカ 公立図書館 図書館史 アクセス プライヴァシー 社会的責任 インターネット マイノリティ

1. 研究開始当初の背景

(1) 21世紀になり、インターネットに代表される技術的变化によって、建物としての図書館は過去の産物とする論調がある。また国際テロリズムによって、社会のセキュリティを求める動きが高まり、それとともにプライバシーが軽視される状況が生じている。それは図書館利用者のプライバシーや図書館記録の秘密性の問題として、図書館でも大きな関心になっている。

(2) 上記のような技術的、社会的変化を受けて、図書館はさまざまな工夫をしている。例えば、「場としての図書館」、ラーニング・commons、コーヒー・ショップを付設する図書館、住民自体が館内で企画を行う図書館など、多種多様な取り組みがなされている。すなわち21世紀の図書館に向けて、図書館は模索をしている状況にある。

(3) 上記のような図書館状況を受けて、現実のサービスについて、個別実証的な研究は非常に多く存在する。そうした個別研究はともかく、21世紀の図書館が置かれている状況を、図書館の歴史的展開を視野に入れて、図書館史全体の中で、その意味を考えるという研究は皆無といってよい。

2. 研究の目的

(1) このような研究状況を踏まえて、本研究は歴史的視座を持ち込むことで、21世紀の図書館状況を全体的に明らかにすることを目的とした。すなわち現在試みられている個別的な多様なサービス全体を解釈する、一般図式の提供を目的にしている。

(2) より直接的には、上記の目的を達成するために、「サービスの提供」「アクセスの保障」「資料や情報へのアクセスの保障」「利用者のプライバシーや図書館記録の秘密性の保護」という現代公立図書館の基本的な価値とその展開を、歴史的に追求し、特に21世紀に入ってからの変化を説明することで、公立図書館の解釈について一般図式を提出することを目的にした。

3. 研究の方法

(1) 上記の「サービスの提供」「アクセスの保障」「秘密性の保護」という3つの価値は、川崎のこれまでの研究から現在の公立図書館の基本的な価値として抽出したものである。これを図書館史の時代区分と結びつけ、(a)19世紀中葉から1960年代までを「サービス」の時代、(b)1960年代から20世紀末までを「サービス」「アクセス」「秘密性」が三位一体的に展開する時代、(c)21世紀をそうした価値、とりわけ「アクセス」「秘密性」という価値に揺らぎが生じる時代と把握し、そうした各時代の図書館状況を社会状況を土台に、記述するという方法を用いた。

(2) そのために、メディア、マイノリティ、

女性図書館理論について造型が深い吉田右子(筑波大学)、マイノリティ、多文化サービスを研究する小林卓(実践女子大学)、日本の図書館の歴史を研究する三浦太郎(明治大学)、21世紀の図書館サービスの特徴の1つであるラーニング・commonsを研究する香海沙織(筑波大学)を連携研究者とし、相關図書館学方法論研究会を設けて、本プロジェクトを進行させていった。

(3) 例えば現代の公立図書館の基本的な3つの価値が設定された1960年代については、アメリカ図書館協会文書館、ニューヨーク・パブリック・ライブラリー、コーネル大学、ブルックリン・パブリック・ライブラリーなどで、新たな1次資料を幅広く発掘、収集した。概して、構想、方法の点でオリジナル性が、極めて高いプロジェクトにした。

4. 研究成果

本プロジェクトの研究成果を3つの時代に分けてまとめる。

(1) 「サービス提供」の時代(19世紀中葉から1960年代まで): すべての人へのサービスを提供するについて、最も基礎となる「図書館の設置」「利用資格の撤廃」「メディアの受容」を取り上げ、おのこの歴史的展開を明らかにした。「図書館の設置」については、図書館サービスを遍在させるために、自治体、19世紀末から州・カウティ、第2次世界大戦後から連邦という、次第に大きな行政の枠が介入し、図書館設置を援助してきたことを明らかにした。「利用資格の撤廃」については、公立図書館の発足当初、公立図書館は学校での教育を継続、拡大する施設と考えられ、子どもを対象にしていなかった。子どもへの図書館サービスが本格化するのは1890年代からである。また第2次世界大戦後になっても、南部の黒人は南部の大都市の中央館を利用できず、黒人が運営する黒人のための貧弱な図書館サービスしか受けられなかった。こうしたグループの属性による図書館利用の制限は撤廃され、現在ではだれもが公立図書館を利用でき、グループの属性による利用の拒否は過去のことで考えられている。しかし21世紀に入っても、例えば未登録移民者や子どもへの性的犯罪者の図書館利用を禁止するという動きが実際に生じていることを明らかにした。「メディアの受容」については、公立図書館がほとんどすべてのメディアを利用や広報のために取り込んできたことを指摘するとともに、特に日刊新聞というメディアについて詳しい分析を行った。そして日刊新聞の提供は、階級と非常に結びついていることを明らかにした。すなわち大都市中央館をみると、そうした図書館は中産階級の価値を反映し、それを維持する施設であるが、日刊新聞は労働者と結びつき、それがためにさまざまな問題があることを指摘した。例え

ば、大都市中央館は玄関に最も近いところに新聞室を配置しているが、これは利用者の便宜のためではなく、日刊新聞の常連読者である労働者を館内深くに入らせないためであった。これはいままでない知見を実証的に明らかにした部分である。

(2)「三位一体の時代」(1960年代から20世紀末まで):この時代は現代公立図書館の価値である「アクセスの保障」と「秘密性の保護」が形成された時代であり、本プロジェクトが最も力を入れた時代である。ここではまず公民権運動を起点に、住民へのサービスという考えに加えて、住民の知る権利の保障という考えが出現し、それが図書館に具体的にどのような形で現れてきたのかを明らかにした。そこでは社会的責任、アウトリーチ、マイノリティがキーワードになる。具体的には、アメリカ図書館協会での社会的責任をめぐる路線対立、同性愛や平等保護修正案(ERA)をめぐるアメリカ図書館協会での議論と運動(吉田右子)、エスニック・マイノリティへのサービス(小林卓)、ブルックリン・パブリック・ライブラリーにおけるアウトリーチ・サービスの実例(中山愛理(大妻女子短期大学))を各論として研究した。いずれも、アメリカ図書館協会文書館や当該図書館の1次資料を発掘して、実証性の高い研究にした。次に、ヴェトナム反戦運動への取り締まりが契機となり、法執行機関が公立図書館に爆発物に関する図書を利用した人の貸出記録を求めるといった事例が生じた。これは図書館利用の前提を揺るがす事件であり、アメリカ図書館協会は図書館記録の秘密性を保護する方針を定めるとともに、図書館記録の秘密性を定める州法の採択に動いていく。こうした法執行機関の動きと図書館の態様について、実証的な研究を進めた(高嶽裕樹(大阪教育大学))。

(3)「揺らぎと展開の時代」(21世紀):「アクセスの保障」と「秘密性の保護」という基本的な価値は21世紀に入って揺らいできた。20世紀まで文献の蓄積、保存、利用の最終的なより所は図書館や文書館であったが、21世紀に入りインターネットによって、図書館の独占が大きく揺らいできた。「資料や情報へのアクセスを保障する」という図書館の基本的価値は、相対的に20世紀よりも低くなってきた。また合衆国愛国者法(2001)の成立によって、セキュリティへの関心がプライバシーへの関心を大きく上回るようになり、図書館の原則である利用者のプライバシーと図書館記録の秘密性の保護という価値が揺らいできた。こうした2つの価値が揺らでいることを視野に入れ、図書館は新たな図書館サービスの試みを行っている。とりわけ図書館という「場」についての関心が理論的、実践的に高まっている。そうした状況を視野に置いて、今後の図書館のあり方を考える前

提を構築するという観点から、北欧の公立図書館の最新の動向(吉田右子)、ラーニング・コモンズ(呑海沙織)、「第3の場としての図書館」(久野和子(神戸女子大学))などについて新たな研究を行った。

(4)こうした研究成果は最終的に以下の図書として、2015年2月に刊行した。川崎良孝編著『図書館トリニティの時代から揺らぎ・展開の時代へ』京都図書館情報学研究会発行、日本図書館協会発売、2015年2月、497p. 本研究プロジェクトの連携研究者である吉田右子、小林卓、呑海沙織に加えて、アンドリュウ・ウェルトハイマー(ハワイ大学)、中山愛理(大妻女子短期大学)、高嶽裕樹(大阪教育大学)、北村由美(京都大学)、久野和子(神戸女子大学)、安里のり子(ハワイ大学)などが、本書の執筆に加わった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計7件)

川崎良孝・川崎智子「日刊新聞、階級、図書館の空間配置:19世紀後半のアメリカ公立図書館を例に」『図書館界』(査読有)66(6)、2015年3月、p. 362-380.

川崎良孝「絵本『キューバ訪問』の除去をめぐる事件:アメリカ自由人権協会対マイアミ-デイド学区事件(2006, 2009年)」『図書館界』(査読有)66(3)、2014年9月、p. 206-223.

川崎良孝・福井佑介「公立図書館のフィルターソフトをめぐる法的判断と図書館思想:ブラッドバーン事件における『意見確認』を中心に」『京都大学大学院教育学研究科紀要』(査読有)第60号、2014年3月、p. 1-23.

川崎良孝「映画『ザ・スピーカー』をめぐるALAでの論争:1977-1978年」『図書館界』(査読有)65(4)、2013年11月、p. 234-252.

吉田右子・川崎良孝「アメリカ図書館協会における平等保護修正案支持運動:図書館専門職の社会的責任」『中部図書館情報学会誌』(査読無)33、2013年3月、p. 1-15.

川崎良孝「アメリカ図書館協会1938年版『倫理綱領』の成立と性格」『京都大学大学院教育学研究科紀要』(査読有)第59号、2013年3月、p. 25-49.

川崎良孝「アメリカ図書館協会1938年版『倫理綱領』の改訂の試みと挫折:1959-1962年」『図書館界』(査読有)64(4)、

2012年11月, p. 238-255.

〔学会発表〕(計8件)

川崎良孝「図書館トリニティから揺らぎ・展開の時代へ」上海市図書館学会, 2015年3月9日, 上海(中国)(招待講演)

徐宏宇・川崎良孝「上海におけるモバイル図書館サービスの発展の現状と需要」日本図書館研究会・上海市図書館学会, 2014年10月19日, 京都大学(京都府京都市)

川崎良孝「3つの構想(メディア、学校図書館、倫理綱領)」第5回京都国際図書館フォーラム(関連図書館学方法論研究会)2014年8月11日, 京都大学(京都府京都市)

川崎良孝「読書空間としての図書館の歴史と現状」中国図書館大会(中国文化部)2013年11月7日, 上海(中国)(招待講演)

川崎良孝「図書館の価値の揺らぎと21世紀の図書館」華東師範大学, 2013年9月12日, 上海(中国)(招待講演)

川崎良孝「21世紀の図書館を考える」上海市図書館学会, 2013年9月11日, 上海(中国)(招待講演)

川崎良孝「図書館におけるメディア・階級・空間配置:新聞の場合」第4回京都国際図書館フォーラム(関連図書館学方法論研究会)2013年8月5日, 京都大学(京都府京都市)

川崎良孝「21世紀における図書館の変容と図書館研究」第3回京都国際図書館フォーラム(関連図書館学方法論研究会)2012年8月5日, 京都大学(京都府京都市)

〔図書〕(計16件)

川崎良孝編著『図書館トリニティの時代から揺らぎ・展開の時代へ』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2015年2月, 497p. (川崎智子、吉田右子、アンドリュー・ウェルトハイマー、中山愛理、小林卓、高嶽裕樹、北村由美、久野和子、福井佑介、嶋崎さや香、安里のり子、呑海沙織著)

ロバート・エリス・リー著, 川崎良孝・銚純香・久野和子訳『アメリカ公立図書館と成人継続教育:1833-1964年』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2014年12月, 215p.

クリスティン・ポーリー、ルイーズ・S.ロビンズ編, 川崎良孝・嶋崎さや香・福井佑介訳『20世紀アメリカの図書館と読者

層』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2014年10月, 351p.

川崎良孝・劉曉丹・徐宏宇著, 櫻井待子訳『上海地区モバイル図書館サービスに関する調査報告』京都図書館情報学研究会発行, 2014年10月, 46p.

ローズマリー・R.ドゥモン著, 川崎良孝・久野和子訳『改革の反応:アメリカの生活における大都市公立図書館』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2014年3月, 172p.

ジョージ・S.ポピンスキ著, 川崎良孝・川崎智子訳『カーネギー図書館:歴史と影響』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2014年3月, 271p.

ジェーン・ジェラード、ナンシー・ボルト、カレン・ストレッツ著, 川崎良孝訳『図書館と民営化』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2013年11月, 103p.

川崎良孝編著、吉田右子・安里のり子・福井佑介著『図書館と知的自由:管轄領域、方針、事件、歴史』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2013年11月, 293p.

アリソン・ルイス編, 川崎良孝・久野和子・福井佑介・川崎智子訳『図書館と中立性』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2013年10月, 158p.

川崎良孝「『21世紀における図書館:学習空間を考える』」矢野智司・前平泰志編集発行『京都大学大学院教育学研究科平成24年度成果報告書 E.FOURUM 全国スクールリーダー育成研修』2013年8月, p. 3-19.

呉建中著, 川崎良孝・徐瑛・川崎智子訳『普遍的な図書館:移行と超越』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2013年7月, 157p.

ウェイン・ビヴェンズ-テイタム著, 川崎良孝・川崎佳代子訳『図書館と啓蒙主義』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2013年3月, 175p.

ジューン・ピネル・スティーブズ著, 川崎良孝・高嶽裕樹・川崎智子訳『公立図書館で知的自由を擁護する:現場からのシナリオ』京都図書館情報学研究会発行, 日本図書館協会発売, 2012年10月, 191p.

ウェイン・A.ウィーガンド著, 川崎良孝・川崎佳代子・福井佑介訳『メインスト

リートの公立図書館：コミュニティの場・読書のスペース・1876-1956』京都図書館情報学研究会発行，日本図書館協会発売，2012年9月，314p.

川崎良孝・呑海沙織・李霞・劉曉丹・徐宏宇『中国の大学図書館における学習支援に関する調査報告』京都図書館情報学研究会発行，2012年7月，40p.

川崎良孝編著、高嶽裕樹・川崎智子著『秘密性とプライバシー：アメリカ図書館協会の方針』京都図書館情報学研究会発行，日本図書館協会発売，2012年6月，139p.

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/~lib-sci/k-index.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川崎 良孝 (KAWASAKI, Yoshitaka)
京都大学・教育学研究科・教授
研究者番号：80149517

(3) 連携研究者

吉田 右子 (YOSHIDA, Yuko)
筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授
研究者番号：30292569

小林 卓 (KOBAYASHI, Taku)
実践女子大学・文学部・准教授
研究者番号：70260643

三浦 太郎 (MIURA, Taro)
明治大学・文学部・准教授
研究者番号：40361597

呑海 沙織 (DONKAI, Saori)
筑波大学・図書館情報メディア研究科・准教授
研究者番号：40361597

(4) 研究協力者

安里 のり子 (ASATO, Noriko)

久野 和子 (KUNO, Kazuko)